

# News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2020年度 第2号 (NO.10)

## Contents

- ◆PROGの実施について . . . . . 1
- ◆PROG・『学生の実態・満足度調査』の分析について . . . . . 2
- ◆『学生の実態・満足度調査（2020年度実施）』速報について . . . . . 3
- ◆二松学舎憲章 . . . . . 4

### ◆PROGの実施について

本学では、2017年度から、1・3年次生を対象として、ジェネリックスキル測定ツールとして、PROGを学生の任意受験（無料）にて実施しています。

PROGは、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（以下、ジェネリックスキル）の育成を目的に、「リテラシー」と、「コンピテンシー」の2面から測定するペーパーテストです。

リテラシーとは、知識を活用して実践的な問題を解決する力を意味します。PROGでは、設定された状況や文脈の中で、文章や資料を読解したり計算したりするように工夫されており、自らの経験を活かした解釈や判断が問われる問題となっています。

コンピテンシーとは、自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力です。PROGでは、実社会で活躍する若手リーダー層の行動特性のデータと比較することで、実社会で通用する「周囲に働きかけ対処する力」を計測するよう設計されています。

学生の手元に届くPROGの個人結果報告書は、数値結果とイメージグラフィックで可視化され、学生が読みやすいよう、かつ自己理解を深められるように記載されています。

また、各学年・学部別にPROGの個人結果報告書を基にした解説会を開催し、1年次生においては、自分の特性を知った上でこれからの大学生活4年間をどのように過ごすのか、3年次生においては、これから就職活動を迎えるにあたり、大学での2年間の生活を振り返り、自己の長所や成長を考える機会を提供しています。

今年度は、Web形式で708名（1年次生：410名、3年次生：298名）がPROGを受験しました。今後も、学生のみなさんが自身の成長を客観的に把握するため、また、大学の客観的な教育・学修成果の検証材料として、PROGを実施していきます。

なお、PROGの個人結果（要約版）は、各学生のLive Campusにおいて閲覧が可能となっています（トップメニュー⇒eポートフォリオ⇒学修成果管理・参照情報：自分史）。

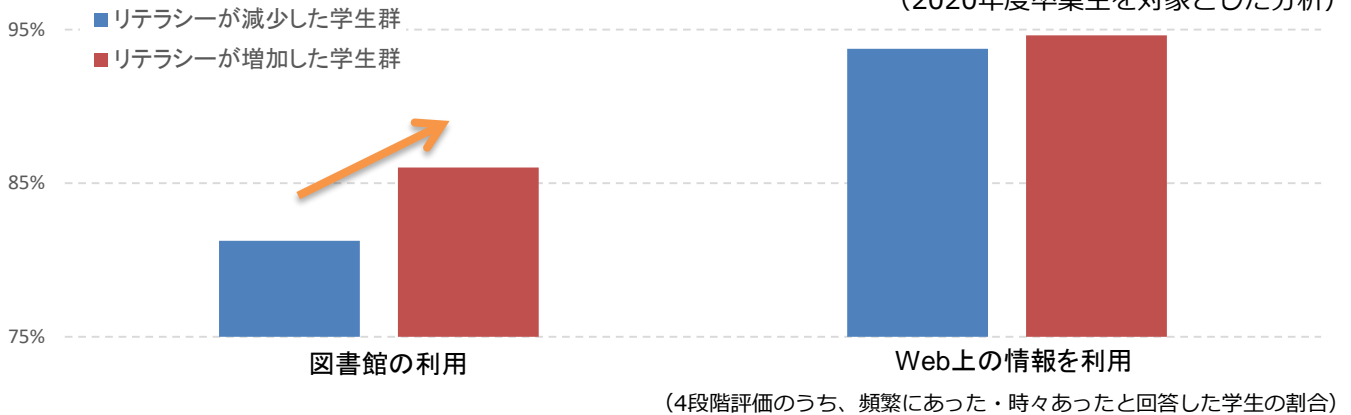
## ◆PROG・『学生の実態・満足度調査』の分析について

各学生が直近時点で回答したPROGテストのリテラシーやコンピテンシーと、『学生の実態・満足度調査』に表れた行動特性の結果をグルーピングすることによって、それぞれの関係性を分析しています。

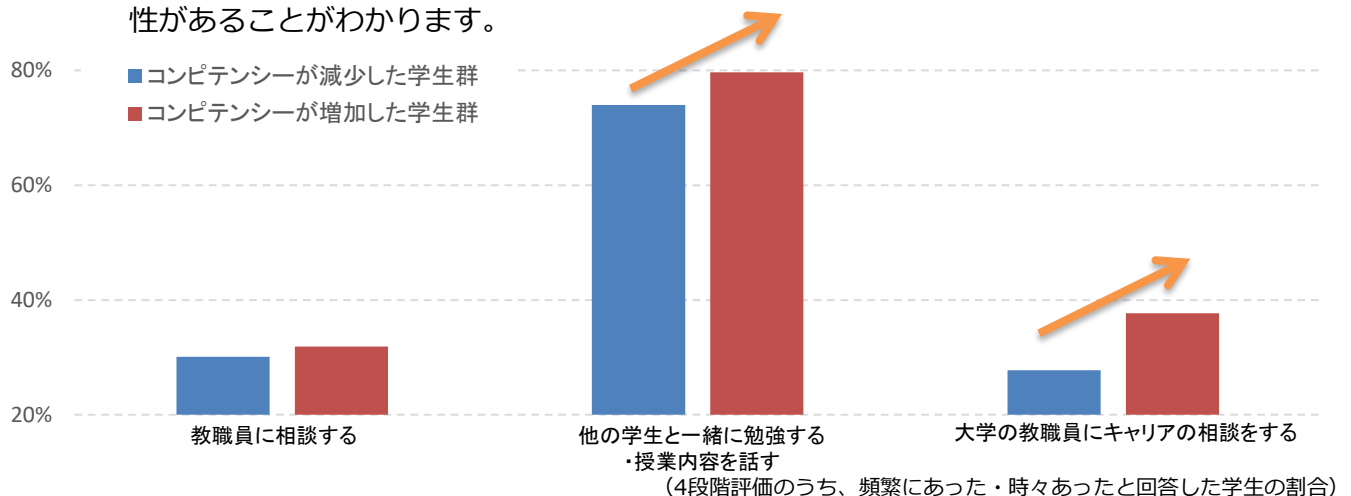
以下はリテラシーやコンピテンシーが上昇した学生には、どのような学習傾向が見られるのか分析し、大学の教育成果や、本学の抱える課題等の検証材料として、各種委員会等で報告・検討したものです（リテラシー：知識を活用して実践的な問題を解決する力、コンピテンシー：自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力）。

▼大学の授業や授業以外の学習に関して、次のことがらをどの程度しましたか。

(2020年度卒業生を対象とした分析)



- 赤で示した1年次生から3年次生にかけてリテラシーが増加した学生群の行動特性をみると、Web情報の利用度ではリテラシーが減少した学生群と大きな差はないものの、「図書館を利用する」（頻繁にあったとする割合が高い）傾向がみとれます。
- たやすく情報が手に入るWebだけでなく、問題意識を持って文献調査をするなど、主体的な学習行動が身に付いている学生ほどリテラシーが高まると考えられることから、授業の中で自学自習に繋がる課題を設定する、といった工夫をすることで、リテラシーが増加する可能性があることがわかります。



- 赤で示した1年次生から3年次生にかけてコンピテンシーが増加した学生群は、青のコンピテンシーの減少した学生群と比較して、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話す機会が多いことがわかります。他者と意見交換を行うことで、周囲に働きかけ、対処する力が高まることを示唆していると考えられます。
- また、1年次生の時から学生自身がキャリア意識を持っている（キャリアの相談をする機会が多い）ほど、コンピテンシーが増加する傾向にあります。このため、初年次からキャリア教育を充実させることによって、コンピテンシーを養える可能性があると考えられます。

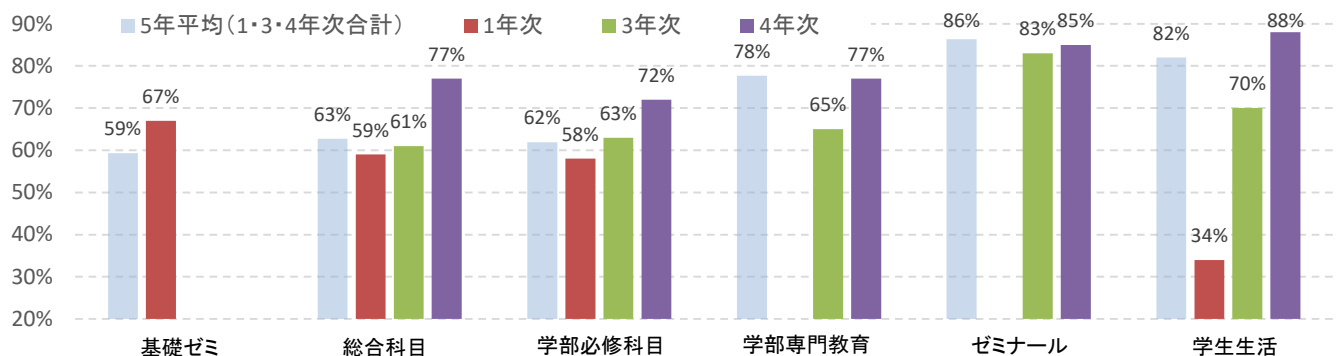
## ◆ 学生の実態・満足度調査（2020年度実施速報）について

2020年度は、11月30日（月）～12月18日（金）の期間に、Web形式で『学生の実態・満足度調査』を実施しました。

1年次生	3年次生	4年次生
412人(57.5%)	300人(39.1%)	267人(38.1%)

（『学生の実態・満足度調査』 回答者数・回答率）

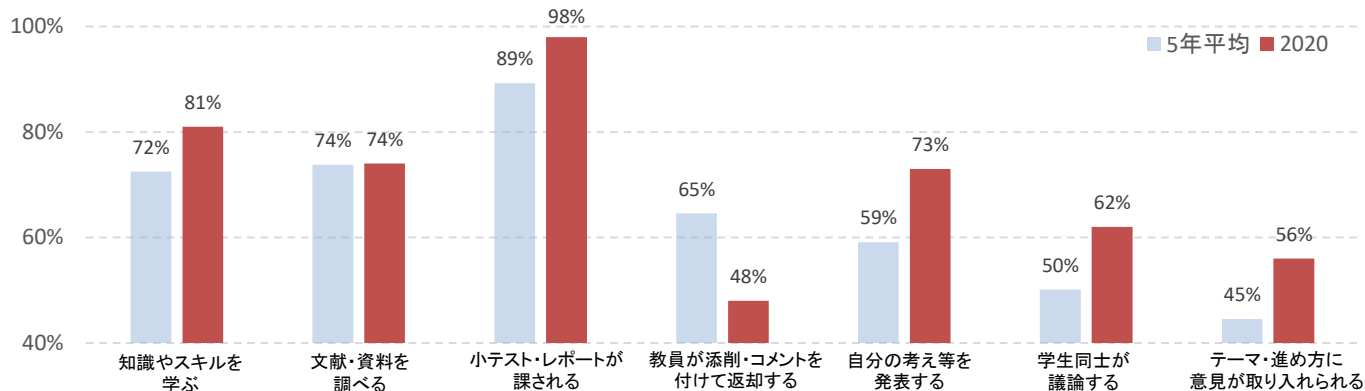
### ▼ 教育内容・学生生活の満足度（4段階評価のうち、とても満足・満足と回答した学生の割合1・3・4年次生）



（調査実施の1・3・4年次合計の5年間の平均と2020年度の1・3・4年次生集計結果を比較）

- 授業内容については、1・3・4年次生で、5年間平均（1・3・4年次合計）に近い満足度を示した一方で、『学生生活の充実度』では、1年次生で『充実している』と感じている学生の割合が、例年と比較して大幅に低下していることが確認されました。
- 1年次生の回答した自由記述では、新型コロナウイルスの対応下において、大学への入校制限が課される中、『大学に行けない』ことや、『友人』関係を構築しにくいことが、学生生活で『充実していない』と感じている理由として多く記載されていました。

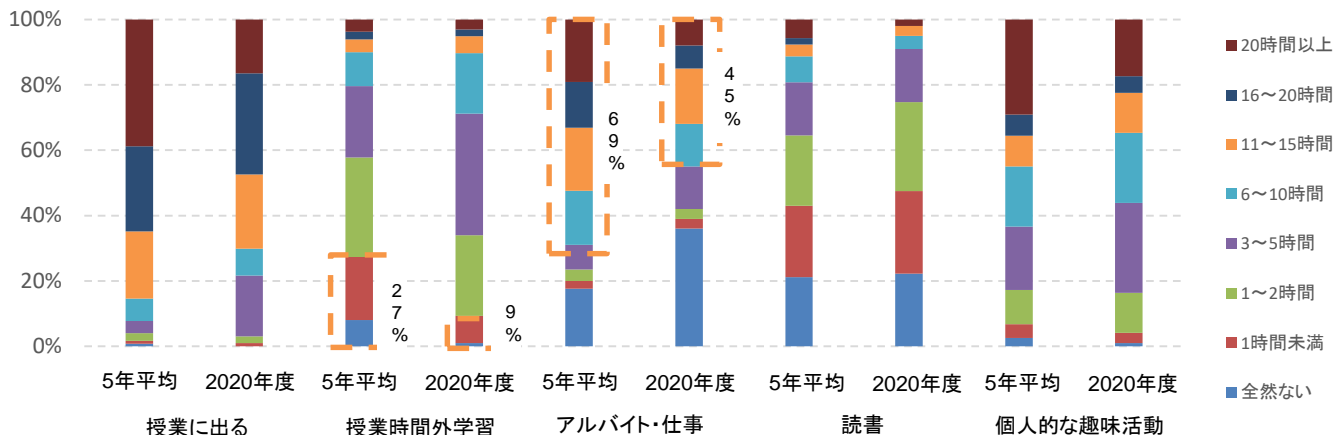
### ▼ 大学の授業での経験について（4段階評価のうち、頻繁にあった・時々あったと回答した1年次生の割合）



（調査実施5年間の平均（1年次生）と2020年度の集計結果（1年次生）を比較）

- こうした状況を踏まえ、本学では、文学部で基礎ゼミウィーク（基礎ゼミの分散登校）を実施したほか、オンライン授業システムにブレイクアウトセッション機能を導入し、グループワークや学生同士の議論の場を設け、『自分の考え等を発表する』機会や、『学生同士が議論する』機会を確保する工夫を行っています。
- また、学生による授業アンケートで好感度の高かったオンライン授業の好事例を共有する（非常勤講師の先生を含む）機会をFD講演会として設けるなど、オンライン授業固有の問題を共有し、改善に役立つ取り組みを大学として実施しています。
- これらの結果、大学の授業での経験は、概ね従来以上の満足度が確保されているように観測されますが、学生による授業アンケートでも指摘の多かった、『課題の多さ』や、そうした課題に対する『教員の応答性の低さ』が認められますので、引き続き大学として注意喚起して参ります。

▼この1年間で、次の活動に1週間あたりどの程度の時間を費やしましたか（1年次生）。



- ▶ 授業外学習時間の「全然ない」は、過去5年間における1年次生の平均値（8%）と比較して、2020年度の1年次生では、既往最小の1%となりました。週の授業外時間学習時間が2時間未満の学生も、同27%から9%に減少しています。
- ▶ オンライン授業では、『自分の考え等を発表』する機会（前頁：73%）や、『学生同士が議論』する機会（前頁：62%）を設けて、ほぼ全ての授業（前頁：98%）で『小テスト・レポート』が課される中、学生が自主的に授業内容について学修する機会が増えていることがわかります。
- ▶ 過去5年間における1年次生の平均値では、アルバイト・仕事を6時間以上している学生が、平均して7割近くいたのに対し、2020年度の1年次生の学生は、約半数以下となっています。本学は、国の修学支援制度の支援対象大学となっていますので、大学として積極的な利用の呼びかけや相談を実施しています。

『学生の実態・満足度調査』については、今後も、自由記述の内容等を含めて大学で検証し、本学の教育改善と、学生のみなさんの満足度向上に繋げていく予定です。

## 【二松学舎憲章】

### <建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

### <教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

### <学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

### <社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会への貢献と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp